

患者さんへの臨床研究のお知らせ

自治医科大学附属さいたま医療センター麻酔科では、下記の臨床研究を実施しております。

【研究課題名】

経皮的動脈血酸素飽和度モニターで表示される灌流指標を用いた毛細血管再充満時間の定量化についての研究

【研究責任者】

自治医科大学附属さいたま医療センター 麻酔科 助教 飯塚悠祐

【研究の対象となる方】

2020年12月17日から2021年12月31日の間に、当院で全身麻酔による手術を実施した患者さんです。(20歳以上に限ります。)

【研究の目的・方法】

集中治療室や救急室においては、指先まで十分に血流が届いていて良い全身状態であるかを確認するために、指の爪の毛細血管を評価（指で軽く爪を押すと爪の内側が白くなりますが、その後圧迫を解除して、爪の色が元通りになるまでの時間を見ています。）することがよくあります。この指の爪の毛細血管を評価することは、簡単で体への負担も全くありませんが、連続的に評価することができません（評価の度に、爪を少し圧迫する必要があります。）。

全身麻酔中は、起きている状況から麻酔がかかり、手術が始まるわけですから、起きているときと比べて大きく循環動態が変化します。全身麻酔中も、指先まで十分に血流が届いているか、爪の毛細血管を評価したいのですが、分刻みに麻酔・手術の状況が変化していくため、爪の毛細血管を連続的に簡単に評価できるような指標が求められています。近年、指につける酸素飽和度モニターで、「灌流指標」という数値を出すモニターが開発されています（酸素飽和度モニターは、指先につけて酸素が体にどれくらい取り込まれているかを調べるモニターで、手術中の患者様には全例装着している一般的なものです。）。指にモニターを貼るだけで算出される「灌流指標」は連続的に測定可能であり、爪の毛細血管の評価の代用として使用可能ではないかと期待されています。

本研究の目的は、全身麻酔中の患者様において、「灌流指標」が爪の毛細血管の評価の代用となるか検討を行うことです。実際の方法は、全身麻酔中において、血圧が安定している時に、爪の毛細血管の評価と「灌流指標」を同時に測定いたします。（測定は手術中に1回のみです。）

【研究に用いる試料・情報の種類】

- ・指の爪の毛細血管の評価（指で軽く爪を押すと爪の内側が白くなりますが、その後圧迫を解除して、爪の色が元通りになるまでの時間を見ています。）
- ・「灌流指標」（酸素飽和度モニターから自動的に算出される数値です。）
- ・実施した手術名、測定時の血圧、脈拍数等

【研究期間】

この研究の期間は、2020年12月17日から2021年12月31日までです。

【本研究に関する問い合わせ】

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも

患者さんに不利益が生じることはありません。

お問い合わせ先

〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町 1-847
自治医科大学附属さいたま医療センター
TEL048-647-2111
研究担当者：麻酔科 （氏名）飯塚悠祐

苦情の窓口

自治医科大学附属さいたま医療センター
総務課 TEL048-648-5225